

広報

2010  
(平成22年)



風かおる  
人が輝き  
躍動するまち

# とままえ

# 2

No.582



## まちびと 百景

### 成人式

1月10日(日)公民館で平成22年成人式が行われた。

全国のあるところでは成人式典中に騒いだり、携帯電話での通話や友人と雑談したりといった問題行動がクローズアップされているが、本町の新成人はそれらの行動がないばかりか、登壇者への礼もきちんと行っており、例年すばらしい式典になっている。

これも新成人の今まで学んできた良識と保護者が家庭教育をしっかりと行った成果ではと感じた。

- 平成22年成人式…2
- 出会え～留・幼児教育セミナー…3
- 消防団出初式・救難所出初式…4
- 子どもかるた大会…5
- 健康ばんざい…6
- 国民健康保険ガイド…7
- 国民年金・川柳…8
- 学びの広場…9
- 住まいる情報…10～11
- ちびっこギャラリー…12

### まちの人口

人口/3,696人 (男/1,729人:女/1,967人)  
世帯数/1,656世帯 (1月31日現在)

URL:<http://www.town.tomamae.lg.jp>

# 未来に翔け

—新成人おめでとう—

## 平成22年苫前町成人式

1月10日(日)午後1時から公民館において平成22年苫前町成人式が行われた。今年の対象人数は、男性16人、女性22人の計38人で、この日は男女合わせて35人が出席し、成人へ新たな一歩を踏み出した。

式では、新成人が1人ずつ「これまではいろいろな人に助けもらったけど、これからは助けられるようになりたい」「もう子どもがいるので、子育てができる親になりたい」などと、一言ずつ成人への抱負を述べながらステージから入場した。

式辞で岡田裕幹教育委員長は、「一人より二人、三人と仲間を求め連携し、つながりを求めていくことで大きなパワーとなる。活躍する場所や皆さんを必要としている場所もある。若者にある「恐れず」「ひるまず」を活かし果敢に挑戦してほしい。」と激励した。

続いて新成人を代表して、小笠原宏一さんと西村理沙さんが、「両親をはじめ、多くの方々に心から感謝します。社会は今、非常に厳しい状況であり、幾多の困難があると思うが、この町で学び、育んだ精神で自分を磨き、乗り越えていきたい。成人として、明日の郷土を築く担い手として、微力ながら苫前町の発展のために努力します」と力強く宣誓を行った。

祝辞として森利男町長と星野恭司議会議長が、「学業や職業を通じて気持ちが折れそうになったり、挫折感を味わったりといった実社会の厳しさを経験することもある。目先のことや己の感情に振り回されることなく、自分自身の進化と可能性を信じて強い気持ちを持ち続けてほしい」「世間では口癖のように「どうせ無理」「そんなことできない」という言葉を安易に口にしてはいるが、やらずして何も事は始まらない。皆さんには、何事にも挑む挑戦者であってほしい」とエールを送った。

意見発表では、新成人を代表して丹羽康志さんと中嶋あゆ美さんが、「今日で成人となったが、大人の方や先輩を見習い、自分の行動に責任を持って生活していきたい」「4月から社会人になるが、心身ともに自立し、また子ども達の先生として自覚して生活できるよう頑張りたい」と20歳としての意見発表を行った。

また、新成人の企画「今いちばん会いたい人」として小学校、中学校、高校時代の恩師も出席、お祝いの言葉として「きみたちの立派な姿を見て、とても感動している。これからは、成人としての責任と自覚を持ち、しっかりと頑張してほしい」と述べていた。



成人宣誓を行う  
小笠原宏一さんと西村理沙さん



成人意見発表 丹羽 康志さん



成人意見発表 中嶋あゆ美さん



## 留萌管内の高校の活動を紹介 — 出会え～留（であえ～る） —

留萌教育局の主催、管内の高等学校・留萌支庁・苫前町教育委員会の共催による留萌管内産業教育フェア「出会え～留（であえ～る）」が本町公民館で開催され、町内のほか町外からも多数の参加者が集まり賑わいを見せた。

この催しは、管内高等学校の日頃の取り組みなどの成果発表することや地域総ぐるみの教育環境づくりを進める機会を目的として昨年から開催され、今年が2回目であり、本町での開催は今回が初めてとなる。

内容は、生徒が学習の一環として地元の農水産物を使って商品開発を行ったもの



のや生産したものの実演販売、カレンダー・エコ箸などのものづくり無料体験。スポーツ体験として体力測定やデジタルスポーツ射撃コーナーなども設置された。また、管内8高校・高等養護学校の学校紹介、地元苫前鱈

によるよさこいソーランなどのステージ発表、学校の文化部などによる作品や学校紹介パネルなどの展示コーナー、餅つき体験やおしるこの無料提供、そして、語る広場として「留萌の未来は僕らでつく留」をテーマに管内8高校の代表者による地域の将来についての意見発表を行う「高校生しゃべ留場（しゃべるば）」、「子どものしあわせを、地域のしあわせに」をテーマに3名のパネリストが今の子供達に大

人は何を残せるかを話し合う「地域教育フォーラム」など盛りだくさんな内容で行われた。

地元、苫前商業高等学校の販売コーナーでは、生徒が考え、留萌市内の菓子店「一久庵」に協力依頼、商品製作をしたカボチャのあんか特徴の「かぼちゃどら焼き」や地元の加工品などを販売し、行列ができるほど賑わっていた。

午後から公民館エントランスホールで行われた「高校生しゃべ留場」では、本町からは苫前商業高等学校2年の菊地みさとさんが参加、「管内8校が協力して留萌管内のためにできること」として「留萌管内は海に面しているの



ので、夏を前にボランティア活動として清掃活動を行ってはどうか？」と意見を述べた。また、「地域教育フォーラム」では、家庭教育サポート企業として家庭教育向上のため様々な活動を行っている渡部工業株式会社の渡部和人専務取締役が参加、サポート企業での活動や商工会青年部の事業と通して感じたこととして「子供達のためにできることは、多くの体験の機会を与えること。そのことがきっかけで将来の夢や仕事を選ぶきっかけにつながる。また、子どもに対してはいいことと悪いことをしっかり教えることが必要」と述べていた。

各コーナーの運営に奔走していた苫前商業高等学校を含めた管内8校の高校生も一般住民とのふれあいなどから充実した1日となったようだ。



### 子どもとのふれあいを深めるために ～幼児教育セミナー～

小学校就学前の幼児をもつ保護者を対象とした幼児教育セミナーが12月20日（日）公民館で開催され、13組30名の親子が参加した。今回の内容は、うちに帰っても実践できる歌や手遊び、身体を使った遊びなどを学ぶとともに、その遊びの中からしつけに関するアドバイスを得ることを目的に、NPO法人北海道子育て支援ワーカーズの小川京子さんと手嶋加子さんを講師として招聘した。

遊びはいかに楽しく過ごせるかが重要で、遊びでもメリハリをつけダラダラ長くしたりしない、きまりや約束をしっかり守らせる、上手にできたときほどほめるなどのアドバイスがあった。また、あそびを盛り上げるのはお父さんやお母さんなどの家族で、大切なのは時間でなく中身そして1日に1分でもいいのでギュッと抱きしめてほしいと述べていた。



### 苫前商業高等学校2年 立崎麻衣さん・花井絵美さんカナダ短期留学報告



英語圏の国へ生徒を派遣し、英語とその文化等に直接触れ、幅広い視野をもつ人材育成を目的とした苫前商業高等学校（金濱茂校長）の国際交流事業で、12月17日に森町長を表敬訪問、12月23日に短期留学先のカナダに出発していた同校2年の立崎麻衣さん、花井絵美さんが12月31日に帰国。1月14日（木）に再度森町長と伊藤教育長を表敬訪問し、短期留学における成果、感想などを報告した。

立崎さんは「英語が楽しくなり、もっと学習しうまくなりたいと思うようになった。英語検定などに挑戦してみたい」と、花井さんも「留学先であった人達も英語が上手だったので、自分ももっと勉強し理解できるようになりたい」と今後に向けての意欲を目を輝かせながら語っていた。

## 苫前町消防団出初式



1月5日(火)10時30分から北留萌消防組合苫前町消防団の出初式が、消防署苫前支署前で行われ、苫前・古丹別・力屋の各分団より約60名の団員が参加、新年に向けて地域住民が安心して暮らせるまちづくりのための決意を新たに、地域防災への士気を高めた。

野外式では、人員点呼、確認に続き、団長のほか森利男町長、星野恭司町議会議長、森謙司羽幌警察署長らが服装点検と閲団を行い、全団員が団旗を先頭に消防車両とともに苫前市街地を分列行進した。

福祉センターでの屋内式では、永年勤続や優良団員への表彰状伝達が行われた。挨拶で森町長や来賓からは「町民が安心して暮らせるのも、日頃の団員の皆さんの訓練や活動など尽力の賜物である。近年、各地では自然災害などでの出勤が増えており、災害は忘れた頃にやってくるとも言われることから、訓練等に励み町民の生命財産を守ることに努めてほしい」と激励した。

## 苫前救難所出初式

1月6日(水)14時より日本水難救済会苫前救難所(川村信介所長)所員20名が苫前漁港岸壁で出初式が行われた。

はじめに、人員点呼・報告などを行った後、港内に遭難船がいる想定で救命索発射銃(もやい銃)の発射訓練を実施。来賓等が見守る中、所員が号令に合わせて銃を発射、目標の場所に着水した。

訓練終了後、北るもい漁協苫前支所会議室で屋内式が行われ、川村所長はあいさつで「昨年は本町において海難事故は無かった。これも漁業関係者が日頃から救命胴衣の着用や安全航行に努めたことが無事故につながったと思われる。これからも海上保安部などのご指導をいただき、訓練や研修を重ねていきたい」と述べた。



## 豊漁と安全を祈願 苫前漁業連合部会船霊祭



1月11日(月)午後2時より北るもい漁協苫前支所において苫前漁業連合部会(鈴木旭部会長)主催の苫前漁業船霊祭(ふなだまさい)が、同漁協苫前支所会議室で行われ、苫前・力屋地区の船主らが今年の海上の安全と豊漁を祈願した。

この日は、船主のほか来賓として森町長、星野町議会議長、今隆北るもい漁協組合長ら合わせて40名が出席した。関武宮司による祝詞に続き、出席者が祭壇に玉串を捧げ、豊漁と海上安全を祈願した。

挨拶で鈴木部会長は「4つの漁協が合併し北るもい漁協となり6年が経過、漁業環境が整備されているが、昨年は漁価の低迷、エチゼンクラゲなどによる被害もあり、売上高も目標を少し超えたほどで終わった。ただ、事故が無かった1年であったため、この1年も安全操業やライフジャケット着用などに努めていきたい」と述べた。

## 万が一のときの避難経路を確認 ～力屋町内会で災害図上訓練実施～

1月18日(月)力屋生活館において、町内会員約45名が災害における危険箇所や避難経路を図面上で確認する災害図上訓練(DIG)を体験した。

これは、羽幌警察署が1月15日から21日まで「災害とボランティア週間」にあたることもあり、災害について考える機会として災害図上訓練の実施を力屋町内会(鈴木光雄会長)に打診、実施となった。

同警察署の警備係長が指導する中、「震度6の地震が起きたら何を行うか」「避難のとき何をもっていくか」などの質問に真剣に考えるとともに、町で発行した防災マップを見ながら「自分の家が危険箇所でないか」「避難経路に危険な場所がないか」を確認、地震での行動の仕方や備えなどについて学習を深めた。



## バレーボール少年団古丹別WINDS勝利ならず



バレーボール少年団古丹別WINDS(ウインズ)が1月9日(土)～11日(月)に野幌総合運動公園で開催された第26回北海道小学生バレーボール選抜優勝大会に出場したが、勝利することができなかった。

予選リーグで道南地区の泉野VCと対戦したが0-2で勝利を収めることができなかった。また、2日目に行われた敗者復活戦で道央地区のHOROMUと対戦したが、こちらも0-2で勝利することができなかった。

1月19日(火)役場町長室へ報告にきた古丹別WINDSメンバーと父母の会(合田明子会長)は、「一生懸命がんばりましたが、勝つことができませんでした。私たちのために補助をいただきありがとうございます。」と述べた。森町長は「勝つことがすべてではない。この日のためにがんばったことがいつか皆さんの力になると思います。これからも頑張ってください」とエールを送っていた。

# 苫前町子どもかるた大会

新春恒例の苫前町子ども会育成連絡協議会（早川日出利会長）主催の第19回目を迎える苫前町子どもかるた大会が1月10日（日）に公民館で開催された。

今回の大会には、小学生の部に4チーム、中学生の部に2チームの総勢18名が出場、優勝を競った。

参加者は、読み手の声と配置した札に神経を集中させ、緊張感をみなぎらせながら大会に臨んでいた。

出場した全チームが1月17日（日）に開催される留萌管内中部3町村子ども会かるた大会に出場する。

一時期は各町内子ども会から1チーム以上出場していた同大会もチーム数が減少し寂しい大会となってきているが、各地区の子ども会育成協議会や単位子ども会などで苫前北斗歌留多クラブ（渡邊達也会長）と連携しながらかるたの練習機会の実施や勧誘などを行っているものの、少子化や趣味趣向の多種多様化により、子どものかるた競技人口がなかなか増加しないのが現状である。



## 第19回苫前町子どもかるた大会結果

- ◆小学生の部 優勝：雪チーム 鴨田 祥宏、船木 愛斗、西 志尚、鴨田 佳尚  
2位：海チーム 岸 仁美、鴨田 栞里、石井 聡人  
3位：風チーム 高田 里帆、石井 涼菜、高田 佳歩  
4位：空チーム 本田 脩陽、本田 愛珠、加賀谷悠衣
- ◆中学生の部 優勝：嵐チーム 小澤 菜摘、長澤茉由佳  
2位：海チーム 川村 巧、鴨田 将来、五十嵐海渡

## 大逆転で全道大会 出場権獲得！

## 留萌管内中部3町村子ども会かるた大会

中部3町村の大会を勝ち抜いたチームが集まり、全道大会への出場権を争う留萌管内中部3町村子ども会かるた大会が1月17日（日）公民館で開催され、本町からは、小学生4チーム、中学生1チームが出場した。



中学生の部は、初戦で優勝候補の初山別Aチームに敗れたものの敗者復活戦、2回戦と勝ち進み準決勝に進出したが、初山別Cチームに敗れ、3・4位決定戦へ。初山別Bチームと対戦し、接戦を制し第3位となった。

小学生の部は、1回戦で苫前町空・海・風の3チームが敗退、続く敗者復活戦でも勝利することができなかった。一方、苫前町嵐チームは1回戦で羽幌Aチームに勝利、準々決勝で羽幌Dチーム、準決勝で初山別Dチームを撃破、決勝戦へ。

決勝は、優勝候補の初山別Aチーム。一進一退の攻防を繰り返すものの、終盤相手チーム1枚、苫前町嵐チーム7枚という絶体絶命の場面で、守り手の鴨田祥宏くんが

脅威の粘りをみせ、相手に1枚も取らせることなく大逆転勝利を収めた。小学生チームの優勝は、平成16年度に優勝して以来、5年ぶりとなる。

同チームは、2月28日（日）札幌市で開催される北海道子ども会かるた大会の出場権を獲得した。



## 第30回留萌管内中部3町村子ども会かるた大会結果（本町分のみ）

- ◆小学生の部 優勝：苫前町嵐 鴨田 祥宏、岸 仁美、高田 里帆
- ◆中学生の部 第3位：苫前町 川村 巧、鴨田 将来、五十嵐海渡、長澤茉由佳



## 練習の成果が実り 古丹別中学校吹奏楽部金管四重奏が全道大会へ

1月17日（日）留萌市文化センターで開催された2009年留萌地区管楽器個人・アンサンブルコンクールにおいて、アンサンブル部門に出場した古丹別中学校（長谷川博校長）吹奏楽部金管四重奏が金賞を受賞、上位2チームのうちの1つに選ばれ全道大会に出場が決まった。

メンバーは、同校2年生の中村柊志くん（ホルン）、前川優斗くん（トランペット）、石川将吾くん（チューバ）と同校1年の後藤光輝くん（トロンボーン）の4人。金賞が決まったときは「夢かと思い、ほっぺをつねった」と語る一方、演奏に自信はあったとのこと。2月14日（日）に札幌市のkitara（キタラ）で開催される第41回北海道アンサンブルコンクールでは、「練習の成果を十分発揮し、ホール中にいい音を響かせたい」と意気込みを語っていた。吹奏楽部顧問の秋山よしえ教諭は、「管内代表として堂々と演奏してほしい。地域の皆様に愛される吹奏楽部をめざしているの、皆様の応援をお願いしたい」と述べていた。

健康  
ばんざい

# 『新型インフルエンザ』について

今月の担当は福澤保健師です。

## ☆まずは予防が重要

昨年、猛威を振るった「新型インフルエンザ」ですが、まだまだ油断できず、ウイルスとの接触機会があれば高い確率で感染します。もう一度、感染予防について確認しましょう。

②次に上を向いて、ガラガラうがいをして、のどを洗う。

◆咳やくしゃみをしている人は、マスクを着用しましょう。

咳やくしゃみをしている人はマスクを着用しましょう。

## ☆新型インフルエンザの予防方法

◆外出後は手洗いを徹底しましょう。(手洗い後のタオル等の共有は感染拡大につながります。自分専用のものを使用しましょう。)

- ①せっけんを泡立てて、手のひら同士をよくこすり洗います。
  - ②両手の甲をこすり洗います。
  - ③指先、つめの間も念入りに。
  - ④両指の股をこすり合わせ、指の間を洗う。
  - ⑤忘れがちな親指も、付け根から指先まで念入りに。
  - ⑥手首も忘れずに洗う。
- ◆うがいを習慣化しましょう。
- ①唇を閉じてほおの筋肉を動か

## ☆新型インフルエンザの症状と対策

感染拡大を防止するために次の対応方法を厳守して下さい。

- ・流行時には、人の集まる場所への外出は控えましょう。
- ・毎日熱を測る習慣をつけましょう。
- ・加湿器などで空気の乾燥を防ぐことや、部屋の換気を行いましょう。
- ・十分な栄養と睡眠を取り、体力や抵抗力を高めましょう。

## ＋ Dr.小野の処方せん

### インフルエンザ

インフルエンザウイルスは抗原性の違いからA、B、C型の3つに分けられる。

ヒトで問題になるのは、A型とB型である。主にヒトで流行を繰り返しているのは、H1N1(Aソ連型)、H3N2(A香港型)、B型の3種で季節性インフルエンザと呼ばれる。近年問題となったのは新型インフルエンザ(ブタ由来:H1N1)や鳥からヒトへ直接感染した高病原性鳥インフルエンザ(H5N1:1997年)である。

インフルエンザ診断については、診断キットの発達によりかなり正確な診断が可能となった。迅速診断については発症日より翌日の方が陽性率が高いが、ウイルス量が増加するためと考えられる。高齢者では高熱が見られない例がかなりあることもわかってきた。肺炎の合併は高齢者に多い。

抗インフルエンザ薬として現在、タミフルとリレンザが主に使用されていて5日間投与となっている。今年さらに吸入薬としてラニナミビルが、点滴静注薬としてペラミビルが市販され1回投与となる。



医療法人社団オロロン会

苫前クリニック

理事長 小野 哲郎 ☎ 64-9070

## 受診前に!

受診する医療機関に直接電話して医師からの指示を仰ぎ受診しましょう。



こんな症状があったら...

- ・発熱(38度以上)
- ・からだのたるさ
- ・筋肉痛、関節痛
- ・下痢や腹痛
- ・息苦しさや咳



新型インフルエンザの対策は日々の感染予防と感染拡大を防ぐため、心配な症状が出たら早期に受診し治療を受けることが大切です。また、呼吸器疾患や糖尿病等の慢性疾患がある方は感染すると重症化する危険が高まります。持病についてしっかり理解し、主治医と連携をとることが大切です。



## 編集雑誌記帳

皆様あけましておめでとうございます。本年も「広報とままえ」ともども、担当者も取材に伺うこともありましたがよろしくお願ひ致します。一月は、将来を担う苫前っ子が活躍した月でした。パレ1少年団古丹別WINDSの全道大会出場。中部三町村かるた大会、アンサンブルコンクールでの全道大会出場決定。川村旬輝くんの奨励賞受賞など、年始めからうれしい知らせが続いております。この調子で豊作豊漁、商売繁盛、無事故無違反など町によいことが続くこと、そして皆様によいことが訪れることを願ひたいものです。私は厄年みたいですが...

(Q)